

# 食いしん坊司書の部屋 ~その2~

食べるのも飲むのも大好き！  
そんな私のオススメを紹介🍴

春は眠りが楽しい季節です。私はその日にやることをすべて済ますと早い時間から寝床につくことにしています。本を読んだりニュースを見たりして、だらだらと過ごしていると小腹が空いてくることがあります。そんな時は食べ物の本を読む事にしています。写真たっぷりの料理のレシピ本を読むのもたまらないのですが、まだ文章を読みたいなという気分の時は、食べ物の出てくる小説やエッセイを読んでしのぎます。翌朝起きたら何を食べようか、次のお休みにはどこかのお店に食べに行ってみようかと妄想しながら、ゆっくりと眠りにつくのが幸せなのです。

その中でもオススメの本を紹介します。

### 『作家の口福』

口福とは美味しいものを食べて幸せになることだそうです。恩田陸をはじめ現在活躍する作家さん達が、普段食べている食べ物について書いたエッセイ集です。写真も絵もなく、文章だけの構成ですが、どの作家さんいろいろなエピソードを交えながら魅力的に食べ物の紹介をしていて、想像力を掻き立てられます。短い文章なので、切りがいいところでスッと眠りにつけるのもいいです。

続編の『作家の口福 おかわり』もオススメです。

### 『作家の食卓』

こちらの本は食いしん坊作家さんたちのお気に入りの食べ物がたくさん写真で紹介されています。どのお料理もとってもおいしそう。実際に食べに行けるお店の紹介もされているので、伝統の味を味わいに行ってみてもいいかも知れません。私は、そろそろ遠くに行きたいなという願いも込めて、織田作之助が毎日食べたという大阪の自由軒のカレーが久しぶりに食べたいです。

### おすすめの本

『作家の口福』 恩田陸／ほか著  
朝日新聞出 (596.0 サ) 巣鴨・目白所蔵  
『作家の口福 おかわり』 朝井リョウ／ほか著  
朝日新聞出版 (596.0 サ)  
巣鴨・池袋・目白所蔵  
『作家の食卓』 コロナ・ブックス編集部／編  
平凡社 (910.2 サ) 中央・目白・千早所蔵

# 4月の行事

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
新刊	休館					
10	11	12	13	14	15	16
新刊 お話し会						
17	18	19	20	21	22	23
新刊 お話し会					休館	
24	25	26	27	28	29	30
新刊 お話し会						

<毎週日曜>新刊本を出します。  
新刊コーナーにご注目！

4月10日からおはなし会再開します。  
毎週日曜日11時開始、幼児から  
小学生低学年向けのお話し会です。  
先着5組です。  
ご参加お待ちしております

※赤ちゃんおはなし会の再開まではもう少し  
お待ちください。

### 編集後記

1月の終わりに止む無く伐採をした  
巣鴨図書館の桜の枝から、見事な  
桜の花が咲きました。  
植物の生命力に驚かされ、そして元  
気をもらいました。

(M)

# すがもらいぶらり

2022年4月5日巣鴨図書館発行

## すがもがーでんクイズ

この花は何の花？  
良く知っている  
野菜ですよ！



1



2



3



4



巣鴨図書館の前庭（すがもがーでん）には、  
四季折々、色々な植物を育てています。  
是非、足を止めてみてくださいね！  
さて、正解は…

㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬  
㊭㊮㊯㊰㊱㊲  
㊳㊴㊵㊶㊷㊸  
㊹㊺㊻㊼㊽㊾



### じぞうくん

新メンバーを迎えた  
巣鴨図書館。  
今年も、元気にがんばります！

イラスト作 S

## 食いしん坊司書の部屋 ~その1~



今回のゲストは、  
1月から巣鴨の仲間にな  
った司書です。  
横顔・おススメの  
豪華2本立て。

巣鴨の仲間になって3か月足らずですが、今やすっかり戦力になってくれているさん。

その横顔は？

実は、司書歴16年のベテランさん。これまでも公共図書館や学校図書館で働いてこられたそう。そんなさんの目に、巣鴨図書館はどう映ったのでしょうか？

「前庭（すがもがーでん）がある落ち着いた明るい雰囲気、そこに利用者の方が集ってくる図書館」だったとのこと。

私たちが大切にしたいと思っていること、しっかり伝わっているようで嬉しいです。

そんな、1さんを驚かせたエピソードを一つ。

今から10年以上前、目白に豊島区の図書館員に愛されていた小さなパン屋さんがありました。

そのお店が2度の移転をし、今は1さんお家のそばにあることがわかり…

その時の巣鴨食いしん坊司書たちの熱〜いリアクションは、1さんをかなり驚かせました！

というわけで、今回はパンにまつわるおすすめ本の紹介です。

＜追伸＞1さんが、好きなものは、パンを含めた甘いもの+ちょっと癖のあるもの（パクチャーや内臓系）とのこと。

その源は好奇心。司書は好奇心の強い人が多いです🍷

### おすすめ本

『人生で一度は食べたいサンドイッチ』  
池田浩明／著 PHP研究所（596.6 イ）

『フランスかた届いたパンのはなし』  
酒巻洋子／著 産業編集センター（596.6 サ）

『コムギの食文化を知る事典』  
岡田哲／編 東京堂出版（383 コ）

『パンと麺と日本人 小麦からの贈りもの』  
大塚滋／著 集英社（383 オ）

## じぞうさんぽ

### ＜新大塚ふらんす探訪＞



地下鉄丸ノ内線の新大塚駅から徒歩3分。春日通りから一本入った静かな住宅街に、その建物があります。豊島区立鈴木信太郎記念館。20世紀前半に日本のフランス文学研究の第一人者として活躍した鈴木信太郎氏の旧宅を改修・整備し、2018年に開館しました。文学のみならず、近現代建築の観点からも見所いっぱい小さな文学館です。

細い裏道を抜け、門から続く大谷石の階段を上がると、不思議な造りの古民家が現れました。向かって右から、昭和3年建造の「書斎棟」、昭和21年の「茶の間・ホール棟」、明治時代に春日部に建てられ、昭和23年に当地に一部移築された「座敷棟」の3棟が繋がって建っています。「茶の間・ホール棟」の玄関から入館し、まずは書斎から見学です。



足を踏み入れた瞬間、その情報量に圧倒されました。とにかく、壁が全部本。窓以外、天井まで本。振り向けば、コの字型に立ち並ぶ書架（これも天井まで）。書斎は鉄筋コンクリート造なのですが、書架も含め、内装は全て木造。分厚いカーテンの掛けられた窓の上には、あるじ自らデザインした動物の絵柄のステンドグラスが琥珀色に輝いています。書架の下半分は展示スペースになっており、フランス文学関連資料や鈴木氏の蒐集した稀覯本を紹介。交友関係も幅広く、戯曲『シラノ・ド・ベルジュラック』のコーナーには、鈴木氏が共訳した『シラノ』に森鷗外の寄せた序文の自筆原稿も。廊下で書斎の建築資料と次男の鈴木道彦氏（フランス文学者）のインタビュー映像（全部見ると25分ほどかかりますが、書斎棟を建てるに至った経緯や城北大空襲のお話など興味深い裏話満載なので、お時間があればぜひ！）を見た後は、「茶の間・ホール棟」、「座敷棟」を見学。古き良き日本家屋の美を堪能したのでした。

(A)

### ともほん お供本

旅のお供に  
ふさわしい図書館  
蔵書をご紹介します

『シラノ・ド・ベルジュラック』（岩波文庫）  
エドモン・ロスタン／作 辰野 隆／訳 鈴木 信  
太郎／訳 岩波書店（中央所蔵）

『フランス文学者の誕生 —マラルメへの旅—』  
鈴木 道彦／著 筑摩書房（中央・上池袋所蔵）

『東京人 2021年8月号』 特集：保存リノベ  
建築—歴史と記憶をつなぐ—（雑誌棚No.13）